

# 美容

## 同性を意識した自分磨き

私はサウジアラビアの女性の消費に関する研究をしている。調査を通じて、女性たちが美容に強い関心を抱いていることがわかってきた。なかには「シャワーを浴びる感覚で美容サロンに行く」と言う女性もいるほどだが、いったいどんな美容が流行っているのだろう。

**辻上奈美江** つじがみ なみえ / 上智大学

### 商業関連施設の変化

私がリヤドをはじめて訪れた2000年には、「美容サロン」などほとんどなかった。当時、リヤドの日本人会が配布していた『リヤド案内』という、手作り感満載の冊子に掲載された美容サロンは、たしか2軒だった。そのうちインド人女性が自宅で経営しているというサロンを訪れたことがある。「自分へのご褒美」のために訪れたこの美容サロンはアパートのリビングルームに簡素なベッドを置いただけの空間で、日頃の疲れを癒すよりも、得体の知らないクリームを塗りたくられる不安のほうが強かった。そんなリヤドの美容事情は約20年の年月を経て大きく変わった。街中あちこちで美容サロンを見かけるようになったほか、美容サロンを併設した女性専用高級ホテルも出現した。それだけでなく、ショッピングモールやレス

トラン、カフェなど、いずれも女性客をターゲットにした施設が次々と建設された。

### 気になる同性の視線

サウジアラビアの女性といえば、外出時に着用する黒い長衣「アバーヤ」と、目だけを出すスカーフ「ニカーブ」のイメージが強く、画一的な服装を強いられているように見られがちだ(下の写真)。けれども、そんなイメージとは裏腹に、彼女らは服装に関する社会のルールに従いながら、それぞれにオシャレを楽しんでいる。社会が求める服装規範に従いながらオシャレをしたいのは、私たちと同様である。

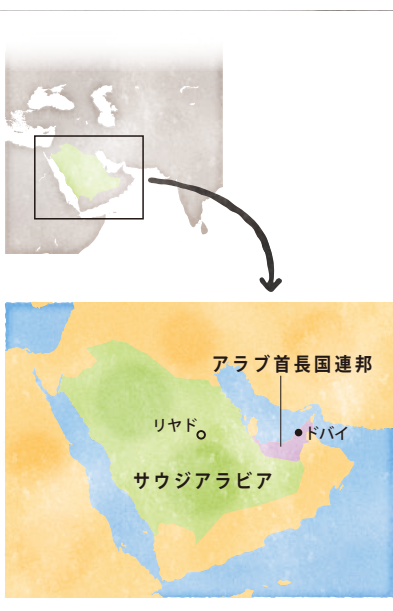
家族以外の男女の交流が制限されている、いわゆる「男女隔離」の社会において、なぜオシャレが必要なのかと疑問に思う人もいるかもしれない。

い。この疑問にはさまざまな見解があるだろうが、筆者は、女性間の厳しい目が原因ではないかと思う。サウジ社会は、異性との交流が制限されている分、女性同士の交流は活発だ。互いに容姿を褒め合うこともあるが、逆に「こうしたほうがいい」「ああしたほうがいい」と面と向かって指摘されることもあるし、陰口を叩かれることもある。女性は、同性を意識して自分磨きをする必要があるのだ。

### 「シャワーを浴びる感覚」で美容サロンに通うけれど……

そんな意識の高い女性たちの中には、「シャワーを浴びる感覚で美容サロンに行く」と言う人もいる。メイクや美容、ファッションに関心があるというこの女性は、ヘアカットのために週末にドバイに行くことも厭わないという。背景には、女性の教育レベルの向上と緩やかな労働参加の増加、そしてそれによって一部の女性が現金収入を得るようになったことや、2000年代以降の原油価格高騰に支えられた好景気などがある。

そんなに美容に関心がある彼女たちなら、さぞかし日々のスキンケアにも熱心なのだろうと思い、日々どんなケアをしているのか聞いてみた。すると驚いたことに、美容サロンに通う女性の何人もが、この質問に対して、意味がわからないという反応を示した。質問の方法を変えて聞き出したところ、どうやら彼女らは何もしていないらしい。シャワーを浴びる際に洗顔をして、その後は何もしない人もいれば、ホテルから持ち帰ったアメニティのクリームを塗っている程度という女性もいた。どちらの女性も、日々のスキンケアにはお金も時間も使っていない。美容サロンには足繁く通



アバーヤと呼ばれる黒い長衣 (2010年12月、リヤド)。

\*写真はすべて筆者撮影。

うが、日々のケアはほとんどしないということのようだ。

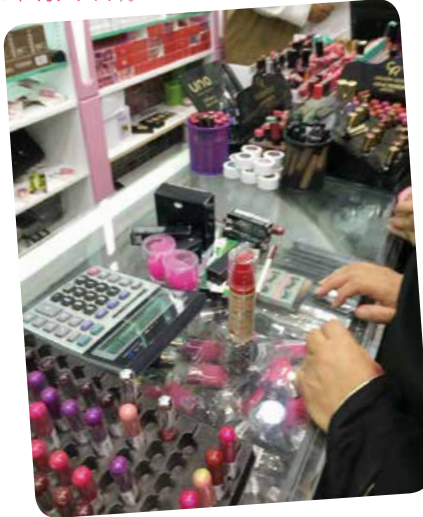
そう言われてみると、このような美容文化の日本との違いにすでに出くわしていたことを思い出した。一度、調査に協力してくれた女性に、奮発して美顔器をプレゼントしたことがあったが、残念ながら、ほとんど使用してくれなかった。スキンケアは自分でするものではなく、サロンでしてもらうものと考えているなら、残念だが納得がいく。

化粧品店も彼女らのニーズを反映した品揃えとなっている。たとえば日本では、メイク落とし、洗顔のち、化粧水、乳液、クリームをつけるという順でスキンケアができるような品揃えとなっているのに対して、サウジアラビアの店舗では化粧水や乳液にあたるものは見当たらない。日本ではスキンケア製品を多く取り揃える世界的な化粧品ブランドも、サウジアラビアではメイクアップ製品や香水を中心に陳列してある。店員たちも国によって陳列する製品が異なることは認識していて、スキンケア製品は売れにくいと教えてくれた（後日の調査で、アラブ圏以外でも化粧水や乳液は主流製品ではないことが判明したが、それは別の機会に稿を譲りたい）。

### 若い女性の間で広まる クリニックでの脱毛

「美容サロン」といってもサービスはさまざまだが、一体どんなサービスが受けられるのだろうか。ホテルの美容サロンや、路面に店舗を構えるサロンなど、手当たり次第にメニューと料金表を入手したところ、フェイシャル・トリートメントやビタミンC導入など、日本でもありそうなメニュー

スーク（市場）の化粧品店は、1本500円程度のリップなどプチプラのメイクアップ製品であふれている（2016年1月、リヤド）。



ドラッグストアでは、洗顔料は多く売られているが、化粧水、乳液はほとんど見られない（2015年12月、リヤド）。



ドラッグストアで売られている陰毛処理用ムース。400円程度（2015年1月、リヤド）。

が並んでいる。これでどうやって調査をすればいいのか悩んでいる時に、ある20代前半女性が、言いにくそうに教えてくれたのが脱毛だった。聞けば、彼女の妹も母も同じ美容系医療クリニックに通い、10回以上全身脱毛の施術を受けたという。これは筆者も試してみなければと、すぐにこのクリニックを紹介してもらい、同じコースを受けることにした。筆者が受けたのは、レーザー脱毛。まずはロシア系レバノン人といわれる女性医師に「毛深さ」を診断してもらい、それが終わるとフィリピン人の女性施術師が丁寧にレーザーを当ててくれた。脱毛後の痛みを軽減できるという最新の機械を使った場合の1回の施術料金は、2,000リヤル（2019年9月25日のレートで約57,000円）。

日本の脱毛サロンでの施術は、電車などの広告によれば数百円から受けられるようなので、リヤドの相場は決して安くはない。だが、外国人労働者によるサービスが充実しているサウジアラビアだけあって、このフィリピン人施術師の脱毛も満足感は得られた。

イスラームでは、初潮を迎えた女性には、40日に1度は陰部の脱毛処理を推奨する教義もあるという。サウジアラビアのある大学病院で実施されたサウジ人女性を対象としたアンケート調査では、77パーセントの女性がカミソリなどを使って自ら陰部のムダ毛処理をしているという。同調査によると医療クリニックに通うのは15.5パーセントとまだ少数派のようであるが、教育を受けた若い女性の間では、クリニックでの脱毛を選択する傾向があることも明らかになっている。

### 男性もサロン通い

「美容といえば女性」という考えは、日本でもすでに古くなっているが、サウジでもそのようだ。私が施術を受けたクリニックでも客の2割程度は男性だった。クリニックでは、歯列矯正や歯のホワイトニングなどの審美歯科診療も行っている。脱毛に加えて、美しい歯を手に入れるために、男性もクリニック通いをしているようだ。

脱毛や審美歯科診療が流行っていることを知って以降、サウジ人に会うと、脱毛処理をしているか、歯並びはキレイなのか、白い歯をしているかが気になるようになった。たしかに若いサウジ人男女の多くが、この3つを兼ね備えている。今、気になっているのは、まだ私が気づいていないサウジ人好みの美容は何なのか、だ。これからも美容体験をしながら探していきたい。

FP



ドバイのスークで紅茶のティーバッグの横にひっそり置かれていた、歯のホワイトニング剤（2017年2月）。